

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 (全学)教務委員会

(責任者名)	ト部 匡司
(役職名)	(全学)教務委員会委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		当該プログラムの対象授業科目「データサイエンス」は、全学共通系科目(全学部対象)の選択科目でありながら、新設時の令和5年度が38人、令和6年度が116人、令和7年度が168人と着実に履修者が増大しているが、履修者の大多数が理系(情報科学部)学生で文系(国際学部、芸術学部)学生の履修が低調な状況にある。 令和4年度から高等学校における「情報Ⅰ」の必修化に伴い、今後、文系学生の履修も増えると思われるが、新入生ガイダンスで当該プログラムの周知を一層図り履修を促進するとともに、当該プログラムの拡充を検討する予定である。
学修成果		「データサイエンス」の成績評価は、授業回毎の小テストと期末テストにより行うが、令和7年度の成績分布割合は、秀:11%、優:28%、良:29%、可:17%、不可:6%、欠席不可:9%で、履修者の85%は単位を修得しており、また、秀と優を合わせた成績優秀者は39%で、令和6年度の32%から7ポイント増加しており、授業の到達目標は概ね達成している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度		本学では全学的に授業アンケートを行っており、いくつかの設問に係る「データサイエンス」の令和6年の結果は以下のとおりである。 ・授業内容に興味を持ちましたか?→4.2/5点 ・到達目標を身に付けることができましたか?→3.9/5点 ・授業は満足できるものでしたか?→4.1/5点 以上のとおり学生からは概ね高評価を得ており、理解度も高まっていると思われる。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度		上記のとおり授業アンケートで学生からの評価が高いことから、口コミで評判が後輩等他学生に波及し、着実に履修者が増大している要因になっていると思われる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		本学では全学共通系科目の再編に取り組む中で、令和7年度から新たに科目区分に「ICT科目」を設けることとし、「データサイエンス」は当該区分に属する。 当該区分には、全学部生が入学後に基本的な情報スキルを身に付ける必修科目「情報活用基礎」も属しており、今回のMDASH認定を得た後、「ICT科目」を拡充し、当該科目群の授業科目をもって改めて全学の応用基礎レベルでのMDASH認定申請を検討することとしており、実現すれば全学生が履修する見込みである。
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		当該プログラムの最初の修了者は令和8年度末であり、進路先での活躍状況、企業等の評価は今後のこととなる。 本学にはキャリアセンターがあり、卒業生の進路先の把握はもとより、適宜、各企業等との連絡調整を行っており、今後の情報収集に努めたい。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		本学には地域共創センターがあり、当センターにおいて広島市立大学産学連携推進協力を設立している。 当該協力会では、本学と地域産業界や行政機関等が協力して、地域に貢献できる人材の育成、技術交流や情報交換を行っており、今後、得られた情報を当該プログラムの充実に活かしていきたい。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		「データサイエンス」では、第1～3回で第4次産業革命・Society 5.0、社会で活用されるデータ(ビッグデータ等)と活用領域を扱い、身近な事例を用いて数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義を理解させる。 加えて、振り返り(アクティブ・ラーニング)を取り入れ、学びの意味を言語化させる。 授業アンケート(令和6年度)の「授業内容に興味を持ちましたか?」は4.2/5点であり、概ね意義は伝えられていると考える。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること		講義資料は視覚的に理解しやすい構成(スライド等)とし、毎年度、生成AI等の技術動向や社会的論点の変化を踏まえて内容・事例を更新する。 また、当該授業は単なる講義に留まらず演習を取り入れているところであるが、第10～12回でグラフ作成やExcel関数、データ解析ツールを用いた演習を行い、理解の定着を図る。 (改善の取組)小テスト・演習の結果を踏まえて、必要な補足説明や資料の修正を行う。
※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		